

2025 年 10 月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	25,435,551	23,968,512	106.1%
国内旅行	5,742,649	5,279,337	108.8%
訪日旅行	1,976,111	1,696,017	116.5%
合 計	33,154,312	30,943,867	107.1%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ 5 社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	前年同月比
アジア	95.0%
オセアニア・南太平洋	114.9%
ハワイ・ミクロネシア	122.6%
欧州・中近東・アフリカ	113.4%
北米・中南米	103.6%

商品別	前年同月比
手配旅行	101.6%
企画旅行	116.5%

チャネル別	前年同月比
店舗	109.3%
オンライン	109.3%

■海外旅行

海外旅行の予約の早期化に対応するため、月間を通じて「決算 SALE」を実施し、主に春休みシーズンを主軸としつつ、間際の秋旅・年末年始の集客にも注力しました。

取扱高では、欧州・中近東・アフリカ方面において、特に添乗員同行パッケージツアーが好調に推移し、前年同月比 113%となりました。また、ハワイ・ミクロネシア方面では、前年同月比 123%と着実な回復をみせており、ハワイでは 60 代のシェアが伸長したほか、ミクロネシアではお客様連れのファミリー旅行を中心に好調に推移しました。一方、アジア方面は前年同月比 95%となりました。特にアジア全体を牽引する韓国において、国内の大型連休の影響で航空座席および現地ホテルが混雑したことが主な要因となり、前年同月比を下回る結果となりました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比106%の 254 億 3,555 万円となりました。

■国内旅行

雪のシーズンを迎える北海道の販売強化にむけて、HIS 限定の特典などを盛り込んだスキー＆スノーボードの商品や、北海道の冬の風物詩でもある流氷クルーズ商品の発売を開始しました。

取扱高においては、新たな需要創出のため、日頃直行便がない小牧空港（名古屋）～稚内空港や、仙台空港～宮古島空港など全国から 5 路線のチャーター便を利用した利便性の高いツアーを販売しました。宮古島においてチャーター便の展開が奏功し、前年同月比 117%と沖縄全体の取扱高を牽引しました。また、「2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」の閉幕を控えた駆け込み需要が発生したことで、関西行きのパッケージツアーと、関西発の日帰りバスツアーが人気を博し、前年同月比 140%と高い伸びを示しました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比109%の 57 億 4,264 万円となりました。

©Expo 2025

■訪日旅行

HIS オランダ法人をはじめとする欧州からの受客や、北米からの団体シリーズ旅行の受客が好調に推移し、取扱高を牽引しました。特に、北米マーケットからの受客本数は過去最高を記録しました。また、グループ会社のジャパンホリデートラベルでは、お客様の声を反映して企画した札幌近郊のバスツアーが、紅葉シーズンの到来による観光需要と重なり、好調に推移しました。さらに、関西圏においても多言語化対応の添乗員を配置したバスツアーを展開したことで、新たなマーケットの開拓と取扱高の押し上げに繋がりました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比 117%の 19 億 7,611 万円となりました。

2025 年 10 月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比107%の 331 億 5, 431 万円となりました。

2025 年 10 月 海外における旅行取扱高状況報告

＜ 海外における旅行区分別 ＞

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	14,922,259	13,670,224	109.2%
アウトバウンド	11,625,624	12,336,852	94.2%
合 計	26,547,883	26,007,076	102.1%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。 海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■ 海外インバウンド

HIS メキシコ法人は、メキシコシティの観光客誘致拡大・認知度向上を図るプロモーション活動を通じ、現地経済や文化継承への貢献を目的としたレップ事業をメキシコシティ観光局より受託しました。

取扱高においては、マレーシアでは、東南アジア諸国の政府系会議における大規模な団体手配の受客が押し上げ要因となり、前年同月比 108%となりました。オーストラリアでは、ハイシーズンとなるエアーズロックを含む主要都市を巡る添乗員同行ツアーが取扱高を牽引し、前年同月比 102%と堅調に推移しました。イタリアでは、引き続き特別聖年（ジュビレオ）によるアジアからの巡礼ツアーに加え、南イタリアを周遊する添乗員同行のパッケージツアーの受客が好調で、前年同月比 106%となりました。カナダでは、月の前半をハイシーズンとして、ドイツ・イギリス・フランスなどをはじめとするヨーロッパ諸国からの、バンクーバーやトロント、バンフといった主要都市行きの商品が継続的な受客を獲得し、前年同月比 109%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 109%の 149 億 2,225 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

シンガポールでは、日本行きパッケージツアーにおいて、紅葉が見頃の東北行きのレンタカー周遊のコースが取扱高を牽引し、前年同月比 109%となりました。フランスでは、長期滞在のパッケージツアーが好調で、特に、韓国行きは学校の休暇に合わせたファミリー層を中心に、ギリシャ行きは酷暑を避ける休暇需要を捉え、前年同月比 143%となりました。

また、取扱高を大きく牽引するカナダでは、引き続き政治・経済的な影響によりアメリカ行きの渡航が低迷しているものの、カリブ海やメキシコといった温暖な地域への需要を獲得し、前年同月比 103%となりました。

一方、海外アウトバウンド取扱高の構成比約 1 割を担っていたトルコ法人では、アウトバウンド事業の縮小に伴い、取扱高が大幅に減少し前年同月比 11%となりました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 94%の 116 億 2,562 万円となりました。

2025 年 10 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 102%の 265 億 4,788 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス

I R 室：050-1746-4188

広報室：050-1746-4177